

市長と語る タウンミーティング  
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年8月23日 午後7時～8時35分  
会 場 南台一丁目町内会館（南台一丁目町内会）  
天 気 晴れ

参加者 30人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆どの位の震度を想定して、建物や水道管などの基準をどの位に設定しているのか。
- ☆消防施設などは、Is値0.9で、これは震度9程度、そういう震度の階級はないですが、その程度に耐えることができるというものです。建築基準法改正によりIs値は0.6が基準となっている。学校はIs値0.75、震度7程度まで耐え得ることができる。ただし、このIs値は建物の倒壊を免れることができ、人が建物から逃げることができるというものです。
- ◆私の会社は震度6に耐えるようになっていたが、東日本大震災の震度7で壊れ1年間使用できなかった。想定が震度6弱ではどうなのか。
- ☆建物についての基準は、震度6弱を超えるものがあっても耐え得るものとなっている。しかし、2回目も耐え得るかは何とも言えないところがある。阪神淡路大震災では倒壊が多かったが、東日本大震災では倒壊は少なかった。これは周期が違ったことによるもの。市役所の建物等についても安全確保を進めている。
- ◆避難場所の駒西小に行く場合、福岡江川緑道の下は川になっていて、数年前に水が溢れ大変であった。そうした場合はどうするのか。今の人は下に川があることを知らない。
- ☆今後、橋の補強が必要かと考えてる。新河岸川に架かっている橋の強度を調べることになっている。他の会場では、関越の安全性についての質問があり、ネクスコ東日本に聞いたところボックスになっている場所は大丈夫であるとのことであった。しかし、土手が土の場合はどうなのか、西と東に分断される恐れがある問題はある。先ほどの福岡江川緑道については、どの程度安全なのかを至急調査して町会長に知らせたい。
- ◆自宅の補強に対する補助金は。怖いのは倒壊と家屋の火災で、町内会には消火器を40本から50本を街頭に分散して置いているが、消防が撤収した。今後どうなるのか。
- ☆昭和56年6月以降に設計されたものは、震度6強は大丈夫。建築課に建築確認時の図面を持っていけば無料で簡易診断をしてくれます。補強が必要となっ

た場合には専門家の診断が必要となります。その時の補助金があります。耐震も家全体ではなく、長く過ごす居間だけをする方法や外側を耐震する方法などもあります。また、家具が倒れることなどによる内部の危険性もあります。

消火器については、消防や行政が設置したことはありません。消火器は、自治会が設置、住宅開発時に設置、都市ガス設置時にガス会社が寄付して設置した場合の3つがあります。消防では、古くなって撤去してほしいと頼まれた時に撤去したケースがあった。水道管を使用する簡易消火栓については、消防が管理している。現在、水道管を地震に強いダクタイトイル管に交換しているが、全ての交換は難しく災害時にどうなるかはわからない。消火器は火災には効果があり、充実をしていきたい。

◆想定の中では、24時間後に1万1,363人が避難生活をするとしているが、その算定方法は。また、避難所には何人収容できるのか。

☆算定は県が数値化したものです。市では、例えばダクタイトイル管が総延長のうちどれ位あるのかなどの情報を県に提供しています。1万1,363人という人数は、避難所を20箇所と想定し、その面積を1人2㎡で割り返しての数値です。しかし、今後は民間施設の活用も検討していきたい。

◆食糧を3日間は手当するとあるが、それ以降のインフラ、電気、水道についてはどのように手を打っているのか。

☆復旧計画で東電などと復旧することとなっているが、3月11日まで打ち合わせをした形跡はない。これから、改善をしていきたい。

災害時に一番大切な話をしたい。皆さんの頭の中は、地震が来た場合、家にいると思っている。しかし、災害はいつ発生するかわからない、昼か夜か、平日か土日か、買い物中かもしれない。3月11日の時も帰宅できない人が大勢いた。例えば、冬の北風が吹いている夕食時でストーブを使用していれば火災が多発します。皆さんは、駒西小に向かおうとする、しかし、煙が上がっていたら駒西小には行かないで下さい。安全な、畑でも駐車場でもよいので、そこに避難してまずは自分の身の安全確保をしてほしい。落ち着いてから駒西小に向かって下さい。出先なら人の集まっている所や避難所に行ってください。3月11日の時は、各公共施設と連絡がつかなかったのも、無線やPHSを設置し連絡が取れるようにします。食糧3日間については、1日2食として、1日は県、1日は市、そしてもう1日は各家庭において常時買い足しをしてお米を5kg確保してほしい。現在、大型店とは協定を結びつつある。

◆社協の訓練に参加して感じたことがある。災害時に、避難後における司令塔や物資などをさばく対策はできているのか。

☆できていません。そのためにハグ訓練を実施していきたい。災害時には、避難所には指定職員が4人から5人、学校の先生も3人程度駆けつけることになっている。しかし、職員等は避難所の運営には携われず、食糧調達や怪我人をどうするのかなどの対応に終始してしまう。避難所の運営については、地域の皆

さんに運営委員会を作ってもらい、避難所内の受付、避難所のどこにどなたがいるかの把握、全体の運営や割り振りなどをしてもらうこととなる。そのようなことを12月2日の防災訓練で実践してもらいたい。災害が平日の昼間に発生した場合、現役の人は地域にはいない。そのような時は、場合によっては、中学生も力になると考えている。高齢者だからできないではなく、おのおのができること実施し、2人でやることを4人で力を合わせて実施することなどはできると考えている。

◆東京都では災害時に車を入れさせないとしているが、ふじみ野市はそのような考えはあるのか。

☆考えていない。災害車両の通行のため、主要道路の規制はあるが、東京都のように環7より先は車を入れないというようなことはできない。例えば車でないと避難できない人もいるし、避難所の校庭端の車の中で避難生活をしたい人もいるので、規制は難しい。

◆東入間警察の建替えが進んでいないが。

☆文化財の調査が終了していないため、今年の秋頃から進む予定です。

☆地震があると震度がテレビに表示されるが、ふじみ野市が表示されないケースがある、これは周辺より震度が低い傾向にあるため。

◆東部地域は揺れないように感じるが。

☆東京湾に津波が来て、荒川が逆流して被害が出る可能性もある。国によるその想定が今年の秋頃には出る予定。しかし、何でもあくまでも想定になる。この間、市町村長を対象とした研修があり他の首長と話しをした中で、皆さんが異口同音に言うことは、ふじみ野市は沿岸がなくていいということでした。また、総務省の人の話の中では、3.11は想定外と言っていた。しかし、想定はどこまでなら設定できるのか、想定は切りがないもので、100mの津波を想定した場合は、その対処はできないとしか言えない。どこかである程度の基準を設ける必要があるということ言っていた。想定を高くすればよいというものではなく、どこまで対処できるのか、どのように生き延びていくのかが大事。行政としては、最大限の想定をして、ある程度の安心を与えたいと考えている。

◆容器包装プラスチックの処理方法は。以前、分別して出したが、回収した人が同じコンテナの中に入れていた。

☆潰して業者に渡しているが、調査してみます。ただし、汚れているものは燃えるごみ、汚れていないものはリサイクル化としているようである。

◆福岡江川緑道の木がうっそうとして痴漢が出るので、剪定してもらうため、市役所に電話したがたらい回しにされた。最終的に道路課の人が来て、剪定したのは道路から出ている所のみであった。表に出る時に車とぶつかる危険があると言ったところ今度はバッサリ切られた。もう少し加減があってもよいのではないか。また、職員の人が翌日に来ると約束をしたが、その職員が休みで来なかった。だれかに引継をすべきではないか。職員が来た時も予算がないのでで

きないと言われた。

☆予算がないという言い訳は一番よくない。やり方を変えるべきで、予算がないなら地域の人力を借りて一緒になって解決するべきで、市民との協働をすることも考えるべきであった。無駄な予算を削って充てるなどを考える必要があった。

◆都市計画課の人に半年に一回はこの近辺を実際に歩いてもらいたい。市の看板に矛盾などがある。

☆鶴ヶ岡や福岡中の櫛通り、支所の桜通りなどを市民と職員と私とで一緒に歩いて現場を見ているので、今度私が歩きます。

◆江川の緑道をボランティアが手入れをしているが、反対側は県のものだからやらないと言われた。

☆なるべく納得のいかないようなことがないようにしたい。江川が河川であれば国や県から補助金がもらえるが、都市下水路であるため何かをする場合には、市の予算でしかできないところが辛いところである。